

2016年4月4日

インターナショナル・オリーブ・カウンシル

オリーブの国際機関、インターナショナル・オリーブ・カウンシル  
「Believe in Olive Oil」キャンペーンサイトに  
**明治学院大学名誉教授 巖谷國士先生が登場**  
地中海地方にとってのオリーブオイルは、日本にとっての米や大豆と同じ

オリーブオイルとテーブルオリーブの国際協定により設立され、加盟国における国際規格の基準設定、および厳守に努める政府間機関、インターナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council/以下 IOC、本部:スペイン、マドリッド)は、「Believe in Olive Oil」キャンペーンサイトにて明治学院大学名誉教授 巖谷國士先生のインタビュー記事を公開いたしました。

本インタビューでは巖谷先生が「オリーブというのは人間の最後の希望で、困難なときに思いうかんでくるものです」と語るオリーブとオリーブオイルの神秘と歴史、そして地中海の思い出のオリーブオイルの楽しみ方を紹介しています。

本インタビューの中で巖谷先生は次のように語っています。



【インタビュー内容:一部抜粋】

「**オリーブオイルは地中海料理の基本**にあって、他の材料にない特別なものです」  
「**オリーブは豊穡、生殖、平和の象徴**です。ただ、平和の象徴というのは後からつけ足されたものでしょう。ノアの神話からいえば**希望の象徴**にもなります」  
「日本は明らかに米の文化ですが、**(地中海地方にとっての)オリーブオイルは日本人にとっての米や大豆**をイメージすると多少わかりやすいかもしれません。そのくらい風土と結びついた大切な食べ物です」

【巖谷國士先生について】

明治学院大学名誉教授

1943年東京都生まれ。東京大学文学部卒・同大学院修了。明治学院大学名誉教授。シュルレアリスム研究の第一人者とされる一方、旅行家・紀行作家としても名高く、最近では『旅と芸術-発見・驚異・夢想』(平凡社)を刊行し、同名の展覧会も監修した。主な著書に『シュルレアリスムとは何か』(ちくま学芸文庫)、『<遊ぶ>シュルレアリスム』『封印された星-瀧口修造と日本のアーティストたち』(平凡社)ほか多数。

■インターナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council/IOC)について

IOCは、スペイン・マドリッドに本部をおく、オリーブオイルとテーブルオリーブの国際協定に基づく政府間機関です。1959年に、オリーブ栽培と生産の保護と開発のため国際連合によって、国際オリーブオイル協会(International Olive Oil Council/IOOC)として設立。その後、2006年にインターナショナル・オリーブ・カウンシル(IOC)に改名されました。IOCは、オリーブ業界における唯一の世界的な機関として、加盟国と協議をしながら、オリーブ業界発展のための政策作りを行っています。また、持続可能なオリーブ栽培の発展にも貢献しています。

(<http://www.internationaloliveoil.org/>)

■「Believe in Olive Oil」キャンペーンについて

IOCが、2015年7月から2016年12月末までの約1年半展開する、日本向けの啓発キャンペーンです。期間中、①オリーブオイルの健康効果 ②オリーブオイルの和食への応用 ③オリーブオイルの国際規格に関する理解を促進し、消費者が価格に見合った商品が選択できるよう、品質基準の重要性を訴求するための活動を展開いたします。キャンペーンタイトル「Believe in Olive Oil」には、オリーブオイルのちからを再認識してもらいたいという願いが込められています。今後の活動予定など、詳細はウェブサイト(<http://believe-oliveoil.jp/>)をご覧ください。